

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY REPORT
2023



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compounds)インキ
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。
大気中への有機化合物の揮発はほとんどあり
ません。



FSC® 認証用紙
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されて
います。



Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で
印刷しています。

フジトランス コーポレーション

本社
〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111(代) FAX:052-652-7110
<https://www.fujitrans.co.jp/>

2023年6月発行

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY
REPORT
2023



<p>03 会社概要 事業所一覧</p> <p>05 企業理念 フジトランス サステナビリティ ビジョン2050 推進体制</p> <p>06 事業ハイライト</p>	<p>07 社会 安全・品質 方針 推進体制 安全作業に向けた取り組み</p> <p>09 社会貢献</p> <p>11 健康 方針 具体的な取り組み</p>	<p>12 環境 方針 環境マネジメントシステム 環境保護の実践 環境データ</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------

編集方針

「フジトランス サステナビリティ レポート」は、フジトランスグループのサステナビリティに対する考え方や取り組み内容をまとめた資料です。事業に直接関連する内容の他、SDGsやCSRに関する内容も網羅しています。

Webサイト「フジトランス コーポレーション SDGs」<https://www.fujitrans.co.jp/csr/> ▶



対象期間	2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日) 一部、前年度から連続する活動内容を含む
報告サイクル	年次報告として毎年発行
発行	2023年6月(前回:2022年6月)
報告範囲	株式会社フジトランス コーポレーションおよびグループ会社の取り組み
お問い合わせ先	株式会社フジトランス コーポレーション サステナビリティ推進室 〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号

Top message

「KEEP ON TRYING」で積極的に挑戦

(株)フジトランス コーポレーションは、2022年9月29日をもって創立70周年を迎えることができました。これまで社業を伸長することができたのは、ひとえに創業当時から支えていただいた関係先や地域の皆さまのご支援とご愛顧の賜物です。深く感謝を申し上げます。

さて、私たちをめぐる事業環境は日々、大きく変貌しています。特にここ数年は、新型コロナウイルスによるパンデミックや地政学的緊張に起因するエネルギー需給の逼迫といった、これまで想像もなかったリスクに否応なく巻き込まれてきました。当社グループの事業も大きく影響を受けています。

また、2024年には働き方改革関連法の改正に伴ってトラックドライバー不足が深刻化する、いわゆる「物流の2024年問題」が本格的に懸念されます。カーボンニュートラルへの対応も長期的な課題です。

このような逆境の中でも持続的な成長を続けていくために、当社は2023年度から2030年度までの新たな中期経営計画「フジトランス2030」を開始しました。社是「『和』の精神」を基盤として既存事業を改善し、新規事業にも積極的に挑戦してまいります。

一方、国連で採択され、国際社会が協調・連携するSDGsへの対応も肝要です。当社グループの持続的な成長にとって必要なことだと認識し、2021年にSDGs関連の指針として「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」を策定しました。経済・社会・環境の3つの分野で目標を立て、達成に向けて取り組んでいます。



代表取締役社長
系井 辰夫

こうした施策の成果として、2022年度に「みなとSDGsパートナー登録制度」、「愛知県SDGs登録制度」、「なごやSDGsグリーンパートナーズ」に登録・認定されました。

SDGsは、社会が必要とするサービスを提供して課題を解決するとともに経済活動も発展させ、最終的には地球環境と人類社会を永続的に持続させるのが目的です。われわれも「KEEP ON TRYING」をスローガンに掲げ、今後も価値あるサービスを提供し続けてまいります。

環境

【重点的な取り組み】

CO₂排出量削減による脱炭素社会の実現

【目標】

事業所や荷役機器等由来のCO₂排出量を2030年までに2019年度対比で25%削減する。

社会

【重点的な取り組み】

働きやすい職場づくり

【目標】

2030年までに健康経営優良法人の認定を取得する。

経済

【重点的な取り組み】

資源利用量の削減による環境の保全とコストの削減

【目標】

帳票などの印刷枚数を2030年までに2019年度対比で25%削減する。

外部認定・登録制度



みなとSDGsパートナー登録制度(国土交通省)



愛知県SDGs登録制度(愛知県)

なごやSDGs
グリーンパートナーズ(名古屋市)
※認証事業所:
(株)フジトランス コーポレーション 本社



会社概要

Company profile

(2023年3月末現在)

当社は1952年に名古屋市港区で創業した創造的総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船会社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確に捉え、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸」(とうちょうまる)を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内約20拠点を有し、海陸一貫で車両・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取り扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んできました。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げたことから始まり、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などへと業容を拡大しました。今では北米、欧州、東・東南アジアに法人を置き、物流サービスを展開しています。

これらのネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

名称	株式会社フジトランス コーポレーション (FUJITRANS CORPORATION)
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 系井 辰夫

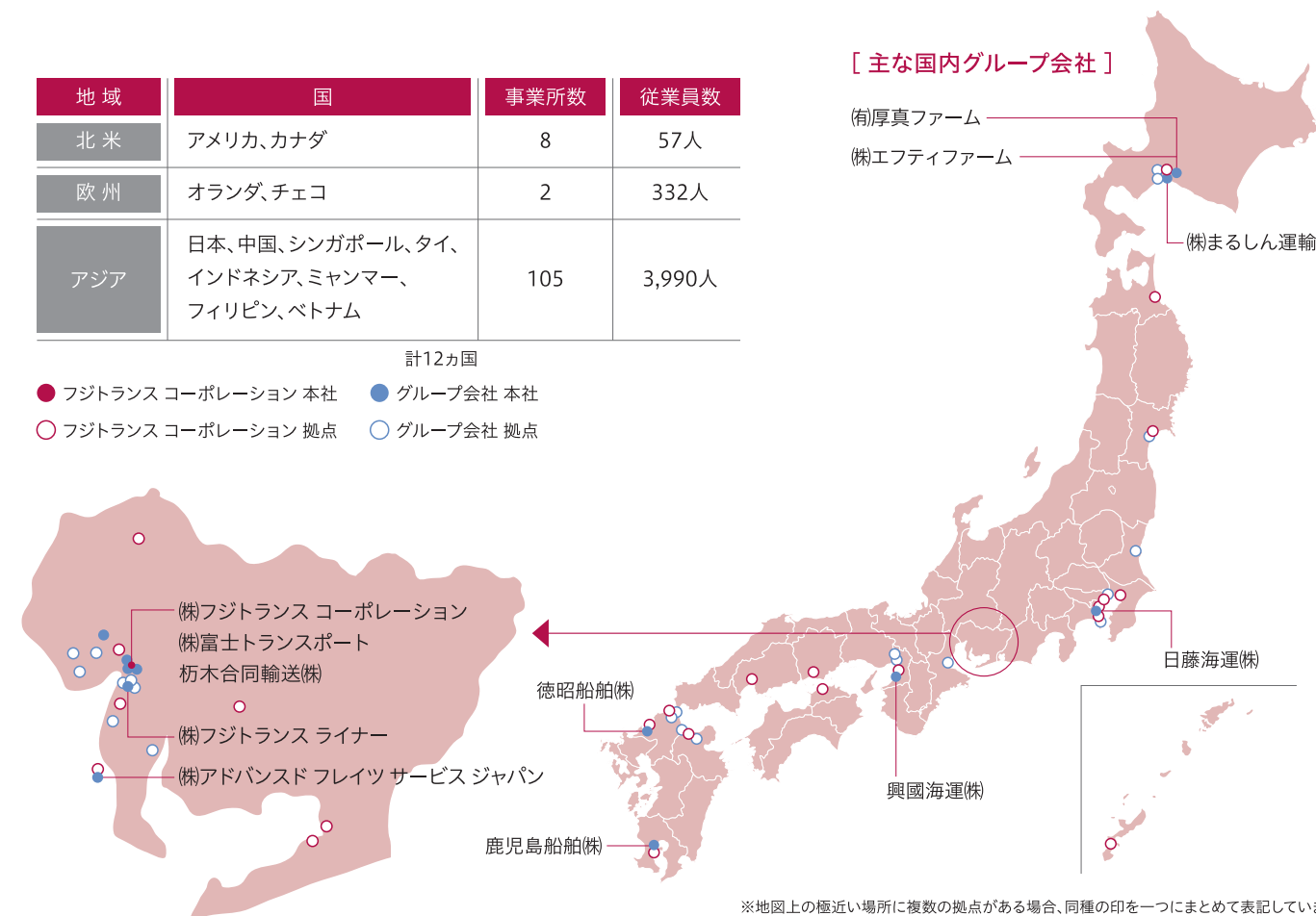
主たる営業種目	港湾運送事業、内航海運業、貨物利用運送事業、航空運送代理店業、通関業、倉庫業、梱包事業、海上運送業 他
従業員数	(単体)1,342人 / (グループ)4,379人
連結子会社数	36社(2022年度)

事業所一覧

地域	国	事業所数	従業員数
北米	アメリカ、カナダ	8	57人
欧州	オランダ、チェコ	2	332人
アジア	日本、中国、シンガポール、タイ、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム	105	3,990人

計12カ国

- フジトランス コーポレーション 本社
- グループ会社 本社
- フジトランス コーポレーション 拠点
- グループ会社 拠点



[主な海外グループ会社]



企業理念

フジトランスグループは、国連が推進するSDGsの考えに賛同し、持続可能な社会の形成に貢献するため、経営理念に基づいて注力すべき重要課題を4つに絞り込みました。そして、これらを長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」としてまとめ、2050年を目標達成年としました。当社グループが社会・環境と共に持続的に成長・発展していくための指針です。

[経営理念]

- 1 誠実で公正な企業活動を通じ、社会から信頼される企業を目指す。
- 2 安全で高品質な物流システムの開発に努め、お客さまに魅力あるサービスを提供する。
- 3 つねに経営の革新に努め、あらゆる分野へ挑戦し、持続的に発展成長する。
- 4 地球に感謝し、環境にやさしい活動を実施し、社会・地域に貢献する。
- 5 相互信頼、共通認識を基本とし、社員とその家庭に安らぎを与える企業風土をつくる。

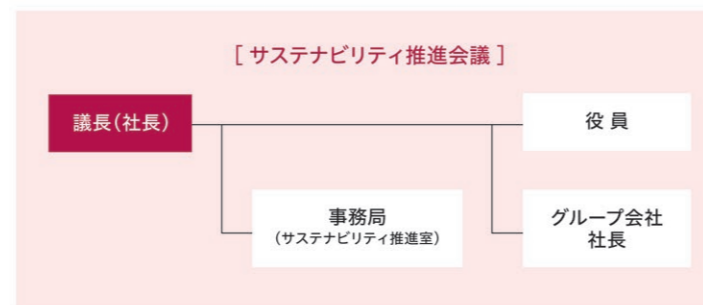
フジトランス サステナビリティ ビジョン2050

	由来する経営理念	関係するSDGsの目標
脱炭素社会の実現 物流は、私たちの暮らしと経済活動にとって大切な機能の一つです。その役割を果たしながら、地球温暖化の主な原因とされる温室効果ガス、とりわけCO ₂ を削減し、カーボンニュートラルの達成に貢献します。	1 2 3 4	7 再生可能エネルギーを拡大する 9 産業と物流の効率性を高める 11 持続可能な都市とコミュニティを構築する 13 気候変動に具体的な対策を講ずる
環境保全と資源の循環利用の最大化 事業活動で利用する資源を低減し、排出するごみを削減します。環境負荷の低い事業活動を心掛け、森林や海洋の環境も適切に保全します。	3 4	11 持続可能な都市とコミュニティを構築する 12 つくばる資源の循環性を高める 14 海の豊かさを守り続ける 15 陸の豊かさも守り続ける
健康経営による働き方改革の促進 従業員にとって、健康的で働きがいのある職場を確保します。また、多様な働き方に配慮し、安定的な雇用を維持します。	1 5	3 持続可能な都市とコミュニティを構築する 8 働きがいも経済成長も高める
SDGs関連の新たな収益モデルの確立 世界各国で、地球規模の共通目標であるSDGsの達成に向けたさまざまな取り組みが進められています。お客さまのこれらのニーズに応え、新たな物流を創造・提案し、従来にはない事業に着手し、今までにはない積極的な取り組みを創出します。	2 3	8 働きがいも経済成長も高める

推進体制

社会的に関心が高まるSDGsをグループ共通の課題と捉え、対応するために、グループの経営者で構成する「サステナビリティ推進会議」を立ち上げています。サステナビリティに関するさまざまな情報を共有し、取り組みを協議しています。

会議は四半期ごとに開催し、社内の指標や方向性の確認、有識者の講演による基礎知識や最新情報の共有などを行っています。



事業ハイライト (2022年度)

2022年 8月

チェコ法人 FUJITRANS CZECH s.r.o. 設立

オランダ法人FUJITRANS (EUROPE) B.V.は、チェコ支店を分社化し、FUJITRANS CZECH s.r.o.を設立しました。FUJITRANS CZECH s.r.o.はチェコ支店の事業を引き継ぎ、倉庫業や物流コンサルティングの機能を担います。

2022年 8月

(株)トレードワルトへ出資

(株)フジトランス コーポレーションは、貿易情報連携プラットフォーム「TradeWaltz®」を運営する(株)トレードワルトに出資しました。「TradeWaltz®」は、アナログな作業が中心の貿易業務の完全な電子化を目指すプラットフォームです。デジタル化の推進によりサプライチェーン全体の最適化が求められる中、当社がこれまで培ってきた知見や現場のノウハウを活かしながら、デジタル化による効率化に期待しています。

2022年 9月

創立70周年

1952年に名古屋港で創業した(株)フジトランス コーポレーションは、創立70周年を迎えました。

2022年 11月

西浜コンテナヤード 優良保税地域業者表彰受賞

(株)フジトランス コーポレーションの保税蔵置場の一つ「西浜コンテナヤード」が、名古屋税関から優良保税地域業者として表彰されました。長年にわたって保税地域として関係諸法令を遵守し、税関行政の円滑な運営に大きく貢献したことが評価されたものです。

2022年 11月

FUJITRANS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD. 3号倉庫竣工

タイ法人FUJITRANS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.は、旺盛な物流需要に対応するため、同国で3棟目となる倉庫を新設しました。

この倉庫は、レムチャバン港から約30kmに位置し日系企業が数多く集まるアマタシティ ラヨン工業団地内に立地しています。延床面積は32,575㎡で、レムチャバン港近郊で運用中の倉庫2棟(計 28,000㎡)と合わせると約60,000㎡の保管能力になります。

また、全ての照明のLED化、太陽光発電設備の設置など、環境に配慮した倉庫になっています。



3棟目となる新倉庫

2023年 12月

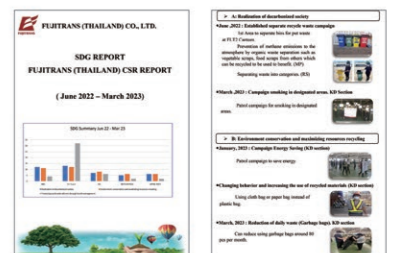
グリーンボンドへ投資

(株)フジトランス コーポレーションは、愛知県が発行するグリーンボンドへ投資しました。この債券は、愛知県では初めて発行される環境債(調達資金の用途が環境改善に限定される債券)です。環境省の「グリーンボンドガイドライン(2022年版)」等に適合しているとして、第三者機関の評価を得ています。

当社の取り組みと親和性の高い「生物自然資源および土地利用にかかる環境維持型管理」「生物多様性保全に関する事業」「気候変動への対応」にも使われることが公表されており、自社だけでは達成できない領域を含めた広範な環境プロジェクトに資することを期待しています。

Pick up FUJITRANS (THAILAND) CO., LTD. CSRLレポート製作

タイ法人FUJITRANS (THAILAND) CO., LTD.が、2023年4月に「FUJITRANS (THAILAND) CSR REPORT」を製作しました。グループのSDGs方針に沿って実施したさまざまな活動の実績をまとめた内容で、海外現地法人としては初めて製作します。



基本的な考え方 フジトランスグループは、物流事業を通じて社会のインフラとしての役割を担います。

安全・品質

方針

品質方針

- 1 お客さまよりお預かりした、大切な軽量貨物から航空宇宙機器までを総合輸送（陸上・海上・航空）するプロ集団企業として、更なるIT化を図り、お客さまのニーズに適したロジスティクスサービスを提供する。
- 2 お客さまとの合意事項およびISOの規格並びに法令・協定等の要求事項を遵守して、誠実で公正な企業倫理に基づいた事業活動を展開する。
- 3 品質活動を有効に推進するために、自主的な物流システムの改善計画を策定し、継続的かつ発展的な維持を図る。
- 4 品質並びに安全・環境への徹底した配慮を業務遂行の基本とし、社員全員の知識と技能を向上させるために、適切な教育を実施して啓発を図る。
- 5 フジトランスグループおよび協力会社と共通認識のもと、お客さまとの良きパートナーシップを通じて、相互コミュニケーションを図り、お客さまと共にグローバルな視点で輸送の明日を構築する。
- 6 重点項目目標 『安全を優先し、人身・物損事故、納入遅延、誤出荷 ゼロ件』

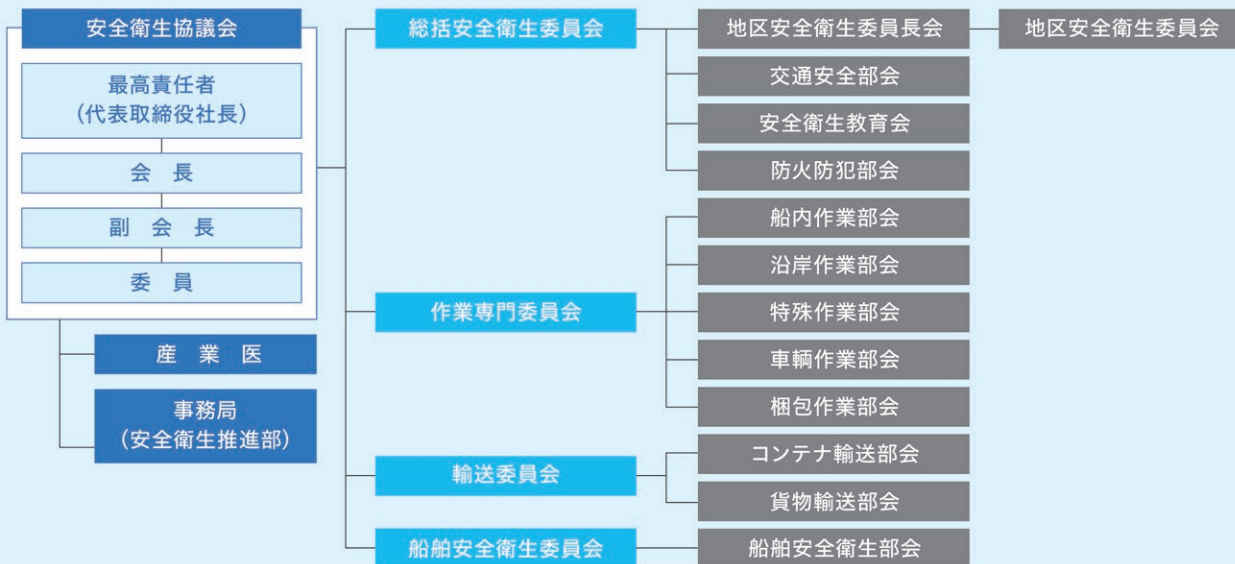
船舶安全運航方針

- 1 海上輸送に関わる関係法令等の遵守、および自社で定めた安全管理規程の遵守を徹底する。
- 2 海上輸送に携わる社会的責任を認識し、海陸が一体となって安全最優先の原則を徹底する。
- 3 船舶運航の安全管理体制を適切に維持管理すると共に、継続的な改善の実施により、更なる安全運航を目指す。
- 4 安全運航に関する教育および訓練の実施により、海陸の安全意識の向上を図るとともに、適切な危機管理を推進する。
- 5 安全・安心で環境に優しい海上輸送サービスの提供を目指し、日頃から積極的な安全活動の推進および環境負荷の低減に取り組む。

推進体制

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。そして、安全の徹底はお客さまからの信頼につながり、事業全体の品質を高めることに通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。

[フジトランス安全衛生管理体制]



安全作業に向けた取り組み

熱中症予防キャンペーン

毎年5月から9月までの間、「熱中症予防キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、熱中症の症状を理解し、定期的に水分や塩分を摂取するなどの対策を浸透させる取り組みです。

各事業所では、期間中に啓発ポスターを掲示したり、熱中症予防に関する映像教材を使って教育したりして、社員に注意を促しています。また、経口補水液や瞬間冷却剤などの熱中症予防グッズを配付しています。



「ゼロ災」キャンペーン

安全衛生協議会主催で、全国の事業所を対象に年2回「『ゼロ災』キャンペーン」を行っています。「全ての事故ゼロ」を目標に従業員一人一人の安全意識を高め、安全で安心な職場づくりを目的とした全社員参加の活動です。キャンペーン中は、経営トップ層による現場点検や各専門委員会によるパトロールを行いました。社員はキャンペーンのワッペンやシールを身に付け、普段以上に安全に配慮しました。

また、上期キャンペーンの際は酷暑激励、下期キャンペーンの際は寒冷時激励のため、役員が各拠点を回りました。

2022年度安全標語

危険予知 防げる危険が見えてくる 高い意識で安全作業

上期スローガン

総力をあげて築こう 無事故の「和」

下期スローガン

「急がず・焦らず・油断せず」心に潜む 危険の芽



ゼロ災唱和(流通センター)



ゼロ災唱和(九号地分室)

トラックドライバー 安全教育

陸上輸送を担う(株)フジトランス ライナーは年1回、自社と協力会社の乗務員を対象に愛知県トラック協会の安全研修を受講しています。研修では、構内走行による実技指導、法令・危険予知の座学を受けます。

乗務員にとっては、運転技術を客観的に評価されることで自らの安全意識を見直す良い機会となっています。



後方フェンスの手前まで目視確認で寄せる実車教育

フォークリフト安全運転強化キャンペーン

作業専門委員会が毎年、「フォークリフト安全運転強化キャンペーン」を催しています。フォークリフト作業従事者の運転操作を確認し、作業中の事故を未然に防ぐために、教育・訓練を徹底する活動です。

また、キャンペーンの一環で、フォークリフト運転従事者が参加する技能競技会を行いました。各職域の代表者が指定されたコースを運転し、安全装具の着用、事前確認の徹底、作業の正確性などを競い、役員や部門長が審査しました。



指定のコースで技術を披露

酸素欠乏症防止キャンペーン

木材チップ専用船での荷役事故対策の徹底と防止を目的に、酸素欠乏症防止キャンペーンを実施しています。

活動の一環として、木材チップ専用船の船内でチップを掻き出す作業者が酸素欠乏症になったという想定で「酸素欠乏症救助訓練」を行いました。マネキンを被災者に見立て、発見から救出、救命箱を使って船から岸壁までの搬送、心肺蘇生、救急車への搬送まで一連の流れと役割を確認しました。



救命箱をクレーンで吊って船から搬送する訓練

社会貢献

フジトランスグループは経営理念に「社会・地域に貢献する」ことを明記し、創業間もない頃からステークホルダーと連携して社会貢献に励んできました。その活動は、SDGsが定める17の目標とも合致します。

交通安全街頭立ち会い

交通安全部会が主体となって、交通事故ゼロの日(0が付く日)に交通安全街頭立ち会いを行っています。朝の通勤時間帯に、本社事務所周辺の交差点で社員が幟を持ち、ドライバーにシートベルトの着用や交差点での一旦停止など、交通ルールの徹底を呼びかけています。



交通安全を呼びかける社員

ウクライナ人道支援

ウクライナ人道支援のため、社員に呼びかけて募金活動を行い、日本赤十字社に寄付しました。この寄付金は、ウクライナでの人道危機対応やウクライナからの難民を受け入れる周辺国とその他の国々での救援活動の支援に活用される予定です。

被災地支援(トルコ・シリア地震)

2023年2月に発生したトルコ・シリア大地震により甚大な被害を受けた被災地の状況を憂慮し、(株)フジトランスコーポレーションは日本赤十字社を通じて寄付を行いました。また、社員からの募金も寄付しました。一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

医療機関への寄付

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院へ寄付しました。高度医療設備や医療体制整備の財源確保に協力し、地域医療に貢献することが目的で、創立70周年事業の一環として行いました。

リレー・フォー・ライフの支援

(株)まるしん運輸は毎年、苫小牧市で行われているチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパンとまごまい」を支援しています。「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」は、がん患者とご家族を支援する活動で、世界約32カ国、約4,500カ所で開催されています。日本では2006年に開催されるようになり、苫小牧市では2016年から行われ

災害用備蓄品 寄付

(株)フジトランス コーポレーションは、自然災害などの緊急時のために備蓄している飲料水や保存食の一部を生活困窮者や子ども食堂の支援のために提供しました。

この取り組みは、未利用のまま消費期限が近づいた備蓄品を有効活用するマッチングサービスを通じて行ったものです。当社からは、アルファ化米90箱、保存水55箱を提供し、フードバンク、社会福祉協議会、子ども食堂などで活用されました。

児童福祉施設支援

(株)フジトランス コーポレーションは、毎年12月に名古屋市内の児童福祉施設にクリスマスケーキなどを寄贈しています。計6カ所の施設にクリスマスケーキの他、プリンやパンなどをお贈りし、施設のクリスマス会で役立てていただきました。

新型コロナウイルス蔓延以降、直接お渡しすることはできていませんが、配送業者を通じて多くの児童らに届けることができ、後日お礼のお言葉をいただきました。

ています。2020年・2021年は感染症対策のため中止されましたが、2022年は規模の縮小などの対策を施して催されました。

(株)まるしん運輸は、苫小牧で開催された当初より毎年協賛しています。所有するトレーラーシャーシを会場内のステージとして提供し、昇降設備などを設営しています。



ステージに使用したトレーラー



完成したステージ

健康

社員が心身ともに健康であることは、事業を続ける上で重要です。そのため、労働安全衛生法を遵守して社員がいきいきと働けるよう安全な職場づくりに努めています。また、定期的に健康状態を把握するとともに、健康に関する情報を得られる場を社員に提供しています。

方針

労働安全衛生方針

- 働く人の負傷および疾病を防止し、安全で健康的な職場を提供する。
 - すべての職場でリスクアセスメントを実施し、労働安全衛生リスクの除去または低減に努める。
 - ストレスチェックの結果を活用し、働く人の健康障害防止と職場環境の改善を図る。
 - 働く人との協議および参加を図り、良好なコミュニケーションのもと、全員参加の労働安全衛生活動を実践する。
- 労働安全衛生リスクおよび労働安全衛生機会への影響を評価し、重要な項目については、技術的かつ経済的に可能な範囲で目標を定める。
- 労働安全衛生関係法令、社内基準およびその他の要求事項を順守し、より一層の労働安全衛生管理レベルの向上に努める。
- 労働安全衛生マネジメントシステムを確実かつ適切に実施し、社員の蓄積された知識と技能を織り込み、継続的な安全衛生水準の向上を目指す。



具体的な取り組み

健康相談会・健康セミナー

健康に不安を抱える社員に対し、個別健康相談の機会を設けています。社員は、健康診断の結果や精神的な困りごとを相談できるようになっています。

また、毎年、社員向けに健康セミナーを催しています。2022年度は「健康診断でわかる健康状態 ～健康維持のポイント～」、「ハラスメントのない職場づくり」、「転ばぬ先の杖 ～いつまでもいきいき働くために～」をテーマに開催しました。

ストレスチェック

年に一度、全社員に対してストレスチェックを行っています。ストレスチェックは、心理的な負担の程度を把握するための検査で、労働安全衛生法で実施が義務付けられています。受検結果は心身のストレス反応、仕事のストレス要因、周囲のサポートの3つの領域で集計・数値化され、傾向の詳細とアドバイスと合わせて受検者本人に返されます。

2022年度は、全体の79.3%が受検しました。社員は、受検結果を確認し、自身の状態を把握するきっかけにしました。

感染症予防と対応

感染症対策は、社員の健康の維持と事業継続において重大な課題です。そのため、ガイドラインを定め、予防と対策に努めています。

[主な感染防止対策]

- 手指衛生(手洗い・消毒)うがいの励行
- その場に応じたマスクの着用、せきエチケットの実施
- こまめな換気の徹底、3密の回避



環境 Environment

基本的な考え方

フジトランスグループは、経営理念に定めた「環境にやさしい活動」を体現するための指針として環境方針を策定し、事業活動を行う地域や海洋環境への負荷の低減、生物多様性の保護に努めています。

方針

環境方針

1. 事業活動に関係する会社と協調し、省資源・省エネルギーおよび廃棄物の抑制を図り、環境汚染の予防に努める。
2. 環境に関する法規・協定、その他の合意事項の遵守はもとより、必要に応じて自主基準を定め、環境保全を推進する。
3. 目的・目標を設定し、取り組み結果を見直すことにより、環境に関する社内システムの維持・継続的改善に努める。
4. 環境教育・広報活動を実施し、全社員への環境方針の周知と環境に関する意識向上を図る。
5. 地域社会との対話を大切に、地域における環境保全活動を積極的に展開する。

環境マネジメントシステム

環境方針に基づいて、事業所や船舶の一部でISO14001環境認証を取得しています。毎年、内部監査および外部審査を行い、マネジメントシステムが適正に行われていることを確認しています。

[ISO14001 認証取得サイト一覧]

会社	事業所・所有船舶
(株)フジトランス コーポレーション	● 本社 ● 九号地分室 ● 金城オペレーションセンター ● 空見荷扱所 ● 金城荷扱所 ● 豊橋支店 ● RO/RO船「ふじき」 ● RO/RO船「ふがく丸」 ● RO/RO船「蓉碧丸」 ● RO/RO船「清和丸」
鹿児島船舶(株)	名古屋事務所

環境保全の実践

干潟の清掃

サステナビリティ推進委員と新入社員ジェネラリストが、愛知県の藤前干潟で開催された清掃イベント「藤前干潟クリーン大作戦」に参加しました。

藤前干潟は伊勢湾の最奥部にあり、当社事業所が多数立地する名古屋市港区と飛島村にまたがっています。干潮時には238ヘクタール(東京ドーム50個分)になる広大な干潟で、日本有数の渡り鳥の飛来地としてラムサール条約(※)と国指定鳥獣保護区に登録されています。

しかし、河川の流れや潮の満ち引きによって大量のごみ流れ着くため、市民団体を中心に清掃活動が行われています。当社も地域の一人としてこの活動に参加し、たくさんのごみを回収しました。

※ラムサール条約:正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。地下水系、浅海を含む広範な対象の湿地を対象に、保全と適正な利用を図ることを目的としている。



清掃に参加した社員

社有林の保全

当社事業の柱の一つである内航海運業にとって、海は重要な事業フィールドです。そして、その海に栄養分を供給する河川の上流にある山林もまた、当社にとって大切な環境だと考えています。そうした森林を健全に保ち、生物多様性を保全するため、当社は北海道の共和町に177haの森林を所有しています。

当社のマスコットキャラクターの愛称から名付けた通称“フジップの森”は、取得時点で樹木の薄い場所が含まれていました。そのため、環境保全と生育段階でのCO₂の吸収のため、人工林を整備して天然林と併存させています。また、新入社員が環境教育の一環で訪れ、毎年植樹しています。(2022年度は感染症対策のため中止)

2022年には、地元森林組合と連携して持続可能な森林として保全していることから、国際的な森林認証制度「SGEC」の認証を取得しました。



SGEC認証取得に伴って新設された看板(右)

ISO周辺美化活動

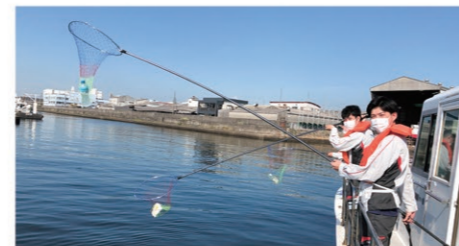
ISOの環境美化活動の一環で、本社周辺を清掃しています。本社に所属する各部署から参加者を募り、敷地の周りや最寄駅である名古屋港駅の周辺の歩道を対象にごみを集めて回ります。本社以外のISO認証拠点でも、それぞれ定期的に周辺の清掃を行っています。



本社近くの港橋公園での清掃

足船を利用した水面清掃

名古屋港内で現場間の移動に使うポート(足船)に乗り、水面を漂うごみを拾う活動を行っています。各本部の代表者が本社事務所にほど近い名古屋港ガーデンふ頭、自社内航船舶の拠点である潮見ふ頭のQ2・BS・BQ・BQ2棧橋、ガーデンふ頭に注ぐ堀川の下流域をボートで巡り、浮遊するごみをタモ網で集めました。



タモ網でごみをすくう社員

運河の水質改善

環境保全活動の一環として、(株)フジトランス コーポレーション 本社事業所の近隣にある運河「一・二号地間運河」で、使用済みの使い捨てカイロを活用した水質改善活動を行っています。この活動は、東京海洋大学 佐々木 剛教授の研究論文を基にした当社・トヨフジ海運(株)・東京海洋大学の共同研究です。当社とトヨフジ海運(株)の各現場で冬季に使用した使い捨てカイロを回収し、内容物を団子状に固めた水質浄化剤を運河内の2カ所に設置して、運河の水質や生物相の改善状況を定期的に調査しています。

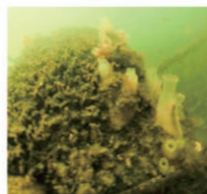
水質浄化剤から溶出する鉄イオンが悪臭の元の一つである硫化水素と結びつくと、硫化鉄となって悪臭を減少させる効果があります。また、水底に溜まったヘドロと反応して分解が進むと生物が有機物を利用し、生物が増加することが期待できます。

設置して約2カ月後には、設置していない場所では水底の水が黒く

濁っているのに対して、設置箇所の水は透明になりました。悪臭の原因の一つである硫化水素の値も低下し、海水のにおいも感じなくなりました。また、水中カメラで確認したところ、フロック(微生物の死骸)がなくなり、イソギンチャクが定着していました。半年後に水質浄化剤を入れた袋を回収したところ、袋の表面にホヤの一種が定着しているのが確認できました。しかし、気温や水温の変化による影響も考えられるため、今後も活動を継続していきます。



使い捨てカイロから作った水質浄化剤



水質浄化剤に定着したホヤの仲間

カーボンオフセットクレジット 調達

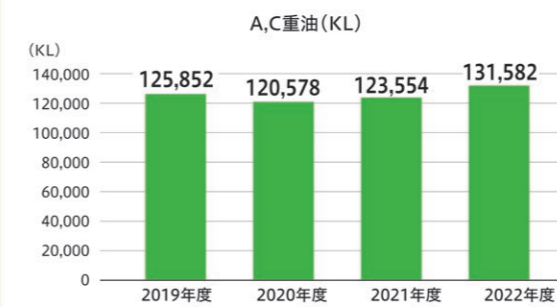
国際社会が協調して取り組むカーボンニュートラルの取り組みは、官民を問わずさまざまな形で進められています。自社内航船舶の運航などによりCO₂を排出する当社もまた、例外ではありません。しかし、CO₂の排出量を削減する重要な取り組みの一つであるエネルギーの転換は、技術的な課題が大きく容易ではありません。

そこで当社は、CO₂の相殺のため、カーボンオフセットクレジットを調達しています。調達するクレジットは、基本的に森林由来のもので、河川を通じて海につながる森林を間伐などで適切に整備することによってCO₂の吸収を促すとともに、林業の支援も意識しています。

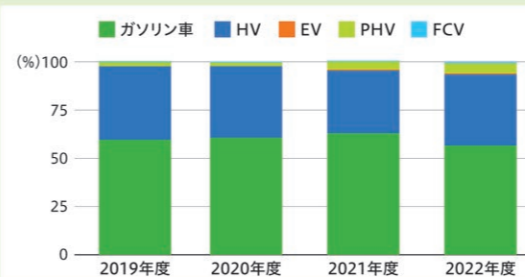
環境データ (2023年3月末時点)

環境方針に基づいて各種施策を実践するにあたり、現状と施策の進捗状況を把握するため、環境負荷データを調査・管理しています。本社のほか、国内・海外の関連会社を対象に、主にエネルギー使用量を可視化しています。(対象関連会社 国内:14社、海外:11社)

[エネルギー消費量]



[パワートレイン別 社用車台数比率 (株)フジトランス コーポレーション単体]



パワートレイン	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ガソリン車	59.6%	60.7%	63.0%	56.6%
HV	38.0%	37.0%	32.4%	37.0%
EV	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%
PHV	2.3%	1.9%	4.2%	5.1%
FCV	0.5%	0.5%	0.5%	0.9%

※構成比率は小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。